



2022年5月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年10月14日

上場会社名 株式会社IGポート

上場取引所 東

コード番号 3791 URL <http://www.igport.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石川光久

問合せ先責任者 (役職名) 管理担当執行役員 (氏名) 栗本典博

TEL 0422-53-0257

四半期報告書提出予定日 2021年10月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年5月期第1四半期の連結業績(2021年6月1日～2021年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|-------|------|------|---|------|------|------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年5月期第1四半期 | 2,293 | | 142 | | 137 | | 131 | |
| 2021年5月期第1四半期 | 1,127 | 42.9 | 15 | | 0 | 99.5 | 19 | |

(注) 包括利益 2022年5月期第1四半期 80百万円 (%) 2021年5月期第1四半期 38百万円 (%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年5月期第1四半期 | 26.67 | |
| 2021年5月期第1四半期 | 3.93 | |

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。売上高に大きな影響が生じるため2022年5月期第1四半期の売上高の対前年同四半期増減率は、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|--------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年5月期第1四半期 | 9,632 | 5,950 | 60.7 |
| 2021年5月期 | 11,847 | 5,780 | 47.5 |

(参考) 自己資本 2022年5月期第1四半期 5,847百万円 2021年5月期 5,623百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年5月期 | | 0.00 | | 10.00 | 10.00 |
| 2022年5月期 | | | | | |
| 2022年5月期(予想) | | 0.00 | | 5.00 | 5.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2021年5月期末配当金の内訳 普通配当金 5円00銭 特別配当金 5円00銭

3. 2022年5月期の連結業績予想(2021年6月1日～2022年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|---|------|------|------|------|-----------------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 10,800 | | 103 | 85.0 | 135 | 81.8 | 32 | | 6.56 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。売上高に大きな影響が生じるため2022年5月期の売上高の対前年同期増減率は、記載しておりません。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) CYBORG009 CALL OF JUSTICE製作委員会

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|------------|-------------|----------|-------------|
| 2022年5月期1Q | 5,055,400 株 | 2021年5月期 | 5,055,400 株 |
|------------|-------------|----------|-------------|

期末自己株式数

| | | | |
|------------|-----------|----------|-----------|
| 2022年5月期1Q | 109,033 株 | 2021年5月期 | 109,033 株 |
|------------|-----------|----------|-----------|

期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|------------|-------------|------------|-------------|
| 2022年5月期1Q | 4,946,367 株 | 2021年5月期1Q | 4,924,809 株 |
|------------|-------------|------------|-------------|

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (会計方針の変更) | 8 |
| (追加情報) | 9 |
| (セグメント情報等) | 10 |
| (重要な後発事象) | 12 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大による緊急事態宣言発令の影響で、景気回復に向かう動きは鈍く、先行きは不透明な状況であります。

このような事業環境のもと、当社グループはアニメーション作品の企画・制作を行う映像制作事業、コミック雑誌等の企画・製造、販売及び電子コミックスの配信を行う出版事業、作品の二次利用による印税・収益分配金等を得る著作権事業に取り組んでまいりました。

また、「収益認識に関する会計基準」等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用した数値となっており、当該会計基準の適用により大きな影響の生じる売上高の前年同期比は記載しておりません。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,293,229千円、経常利益は137,907千円（前年同期比16,543.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は131,940千円（前年同期は19,377千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

① 映像制作事業

映像制作事業におきましては、テレビ用アニメーション「憂国のモリアーティ」「Vivy -Fluorite Eye's Song-」等、劇場用アニメーション「蒼穹のファフナー THE BEYOND」、その他遊技機のアニメーションを納品しました。

一部の作品については、クオリティを重視しており制作赤字となっておりますが、制作予算の管理と予算に合った受注額の交渉により、営業利益は改善傾向にあります。

以上により、当事業の売上高は1,167,026千円、営業利益は9,935千円（前年同期は173,900千円の営業損失）となりました。

② 出版事業

出版事業におきましては、月刊誌「コミックガーデン」、コミックス「リィンカーネーションの花弁 14巻」「剣聖の称号を持つ料理人 3巻」等、定期月刊誌3点、並びに新刊コミックス・書籍26点を刊行しました。

また、既刊コミックスの「リィンカーネーションの花弁」「迷宮ブラックカンパニー」は、特に販売好調でありました。書店向けの出版関連売上は前年対比若干のプラスとなり、電子書籍関連の売上は「異世界転生」「なろう系」コミックを中心に引き続き好調を維持しております。

以上により、当事業の売上高は629,124千円（前年同期比66.4%増）、営業利益は172,490千円（前年同期比342.5%増）となりました。

③ 著作権事業

著作権事業におきましては、「海賊王女」「進撃の巨人」「ハイキュー!!」「サイコパス」等のシリーズタイトルを中心に、二次利用による収益分配を計上しました。

以上により、当事業の売上高は456,260千円（前年同期比16.8%減）、減価償却費が増えたことにより、営業利益は9,412千円（前期同期比93.5%減）となりました。

④ その他

その他の事業におきましては、雑誌のイラストやキャラクターの商品化等により当事業の売上高は40,818千円（前年同期比34.6%減）、営業損失は26,794千円（前年同期は2,765千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

資産におきましては、前連結会計年度末に比べ2,215,400千円減少し9,632,595千円となりました。主な要因は、受取手形、売掛金及び契約資産（前連結会計年度末は受取手形及び売掛金）が897,417千円増加し、一方、仕掛品が2,936,121千円、現金及び預金が308,085千円、コンテンツ資産が161,910千円減少したことによるものであります。

② 負債

負債におきましては、前連結会計年度末に比べ2,384,700千円減少し3,682,519千円となりました。主な要因は、長期借入金が200,000千円、預り金が109,433千円増加し、一方、前受金が2,017,285千円、未払金が273,914千円、買掛金が107,341千円、未払法人税等が125,107千円減少したことによるものであります。

③ 純資産

純資産におきましては、前連結会計年度末に比べ169,300千円増加し5,950,075千円となりました。主な要因は、利益剰余金が222,897千円増加し、一方、非支配株主持分が54,724千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月期の業績予想につきましては、2021年7月9日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2021年5月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2021年8月31日) |
|----------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,505,861 | 4,197,775 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,225,181 | — |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | — | 2,122,599 |
| 商品及び製品 | 104,222 | 128,045 |
| 仕掛品 | 2,959,604 | 23,483 |
| 貯蔵品 | 8,165 | 8,241 |
| 前渡金 | 126,500 | 239,642 |
| その他 | 122,069 | 325,241 |
| 貸倒引当金 | △395 | △329 |
| 流動資産合計 | 9,051,210 | 7,044,699 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 407,285 | 400,476 |
| 土地 | 651,619 | 651,619 |
| 映像マスター（純額） | 399,839 | 326,022 |
| その他（純額） | 76,892 | 72,541 |
| 有形固定資産合計 | 1,535,636 | 1,450,660 |
| 無形固定資産 | | |
| コンテンツ資産 | 776,086 | 614,176 |
| その他 | 15,396 | 14,885 |
| 無形固定資産合計 | 791,483 | 629,061 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 170,500 | 194,076 |
| その他 | 299,163 | 314,096 |
| 投資その他の資産合計 | 469,664 | 508,172 |
| 固定資産合計 | 2,796,785 | 2,587,895 |
| 資産合計 | 11,847,995 | 9,632,595 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2021年5月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2021年8月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 722,217 | 614,875 |
| 未払金 | 644,347 | 370,433 |
| 未払法人税等 | 171,618 | 46,511 |
| 前受金 | 3,202,252 | 1,184,966 |
| 預り金 | 403,589 | 513,022 |
| 賞与引当金 | — | 55,666 |
| 役員賞与引当金 | 73,895 | 2,455 |
| 返品調整引当金 | 52,413 | — |
| 受注損失引当金 | 179,703 | 153,474 |
| その他 | 367,163 | 288,776 |
| 流動負債合計 | 5,817,200 | 3,230,182 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | — | 200,000 |
| 株式給付引当金 | 29,928 | 29,928 |
| 退職給付に係る負債 | 73,309 | 76,130 |
| 役員退職慰労引当金 | 66,311 | 68,808 |
| その他 | 80,470 | 77,471 |
| 固定負債合計 | 250,019 | 452,337 |
| 負債合計 | 6,067,220 | 3,682,519 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 781,500 | 781,500 |
| 資本剰余金 | 2,186,440 | 2,186,440 |
| 利益剰余金 | 2,849,505 | 3,072,403 |
| 自己株式 | △189,732 | △189,732 |
| 株主資本合計 | 5,627,713 | 5,850,611 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | △4,235 | △3,108 |
| その他の包括利益累計額合計 | △4,235 | △3,108 |
| 非支配株主持分 | 157,296 | 102,572 |
| 純資産合計 | 5,780,774 | 5,950,075 |
| 負債純資産合計 | 11,847,995 | 9,632,595 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年8月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日) |
|---------------------------------------|---|---|
| 売上高 | 1,127,728 | 2,293,229 |
| 売上原価 | 831,178 | 1,807,050 |
| 売上総利益 | 296,550 | 486,178 |
| 返品調整引当金戻入額 | 18,910 | — |
| 差引売上総利益 | 315,460 | 486,178 |
| 販売費及び一般管理費 | 330,672 | 343,371 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △15,212 | 142,807 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 660 | 110 |
| 受取賃貸料 | 4,406 | 4,759 |
| 補助金収入 | 19,868 | — |
| その他 | 393 | 457 |
| 営業外収益合計 | 25,328 | 5,327 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 178 | 103 |
| 賃貸収入原価 | 5,206 | 2,146 |
| 知的財産関連費用 | 2,133 | 1,397 |
| 投資事業組合運用損 | 1,560 | 1,295 |
| 持分法による投資損失 | — | 5,140 |
| その他 | 209 | 143 |
| 営業外費用合計 | 9,287 | 10,227 |
| 経常利益 | 828 | 137,907 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 7,948 | 171 |
| 特別損失合計 | 7,948 | 171 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | △7,120 | 137,735 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 11,089 | 46,311 |
| 法人税等調整額 | 19,630 | 11,830 |
| 法人税等合計 | 30,719 | 58,142 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △37,839 | 79,593 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △18,462 | △52,346 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △19,377 | 131,940 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年8月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日) |
|--------------------|---|---|
| 四半期純利益又は四半期純損失 (△) | △37,839 | 79,593 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | △830 | 1,126 |
| その他の包括利益合計 | △830 | 1,126 |
| 四半期包括利益 | △38,670 | 80,719 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △20,208 | 133,066 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △18,462 | △52,346 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしました。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

(映像制作事業)

映像作品の制作については、従来、作品が完成し映像素材を納品した時点で収益を認識しておりましたが、一定の期間にわたり充足される履行義務については、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定期間にわたって収益を認識する方法に変更しております。履行義務の充足に係る進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した制作原価が、見積総原価に占める割合に基づいて行っております。また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しております。なお、制作期間がごく短い場合には、代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、映像素材を納品した時点で収益を認識しております。

(出版事業)

将来返品されると見込まれる商品及び製品については、従来、販売時に対価の全額を収益として認識し、過去の返品実績に基づき売上総利益相当額を「流動負債」の「返品調整引当金」として計上しておりましたが、返品されると見込まれる商品及び製品についての売上高及び売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返品されると見込まれる商品及び製品の対価を返金負債として「流動負債」の「その他」に、商品及び製品を回収する権利として認識した資産を返品資産として「流動資産」の「その他」に含めて表示しております。また、販売促進費等の顧客に支払われる対価については、従来、販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

(著作権事業)

ライセンスの供与に係る収益について、従来は、一部の取引において許諾期間、入金期間等の合理的な基準に基づき収益を認識する方法等によっておりましたが、ライセンスを顧客に供与する際の約束の性質が、ライセンスが供与される時点で知的財産を使用する権利である場合は、一時点で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は817,323千円増加し、売上原価は821,820千円増加し、従来の方法による返品調整引当金戻入額が1,192千円減少したことで、差引売上総利益は5,689千円減少し、販売費および一般管理費は6,597千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ908千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は141,510千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについては、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|-----------------------|------------|---------|---------|-----------|------------|-----------|
| | 映像制作 事業 | 出版事業 | 著作権事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 138,862 | 378,062 | 548,367 | 1,065,292 | 62,436 | 1,127,728 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 138,862 | 378,062 | 548,367 | 1,065,292 | 62,436 | 1,127,728 |
| セグメント利益又は損失(△) | △173,900 | 38,977 | 145,536 | 10,613 | △2,765 | 7,848 |

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 利益 | 金額 |
|--------------------|---------|
| 報告セグメント計 | 10,613 |
| 「その他」の区分の損失(△) | △2,765 |
| 全社費用(注) | △23,060 |
| 四半期連結損益計算書の営業損失(△) | △15,212 |

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間において、「映像制作事業」に係る減損損失7,948千円を計上しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2021年6月1日 至 2021年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|------------------------|------------|---------|---------|-----------|------------|-----------|
| | 映像制作 事業 | 出版事業 | 著作権事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| TV・配信・ビデオ用のアニメ 映像制作 | 627,307 | — | — | 627,307 | — | 627,307 |
| 劇場用のアニメ映像制作 | 284,091 | — | — | 284,091 | — | 284,091 |
| その他のアニメ映像制作 | 255,627 | — | — | 255,627 | — | 255,627 |
| コミック・書籍の出版販売 | — | 171,503 | — | 171,503 | — | 171,503 |
| 電子書籍の販売 | — | 457,620 | — | 457,620 | — | 457,620 |
| 映像コンテンツの著作権料 | — | — | 265,230 | 265,230 | — | 265,230 |
| 出版物に係る原作印税収入 | — | — | 35,289 | 35,289 | — | 35,289 |
| その他 | — | — | 4,289 | 4,289 | 40,818 | 45,107 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 1,167,026 | 629,124 | 304,809 | 2,100,960 | 40,818 | 2,141,778 |
| その他の収入 | — | — | 151,450 | 151,450 | — | 151,450 |
| 外部顧客への売上高 | 1,167,026 | 629,124 | 456,260 | 2,252,410 | 40,818 | 2,293,229 |
| セグメント間の内部売上高又 は振替高 | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 1,167,026 | 629,124 | 456,260 | 2,252,410 | 40,818 | 2,293,229 |
| セグメント利益又は損失(△) | 9,935 | 172,490 | 9,412 | 191,837 | △26,794 | 165,043 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 「その他の収入」には、製作委員会への出資から生じる収益の分配などの企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」に基づく収益を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 利益 | 金額 |
|--------------------|---------|
| 報告セグメント計 | 191,837 |
| 「その他」の区分の損失(△) | △26,794 |
| 全社費用(注) | △22,236 |
| 四半期連結損益計算書の営業損失(△) | 142,807 |

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間において、「映像制作事業」に係る減損損失171千円を計上しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて当第1四半期連結累計期間の「映像制作事業」の売上高は847,210千円増加、セグメント利益は5,424千円増加し、「出版事業」の売上高は4,425千円減少、セグメント利益の影響額はありませぬ。また、「著作権事業」の売上高は25,461千円減少、セグメント利益は4,516千円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。